

口絵写真および災害概要 H25 伊豆大島大規模災害



<災害の概要：（斜面防災技術Vol.40,No.2口絵写真および災害対応支援委員会報告より）>

「平成25年10月11日にマリアナ諸島付近で発生した台風26号は、強い勢力を保ったまま16日明け方に伊豆諸島三宅島南部を通過し、房総半島東岸をかすめて三陸沖に抜けるコースをとった。大島町では降り始めから16日午前8時20分までの24時間雨量が824mm、最大1時間雨量が122.5mmに達しそれぞれ観測史上最大を記録した（朝日新聞10/16）。島嶼でのこの雨量は異例で、主に島内西部で広範囲な表層崩壊が生じた。

未曾有の豪雨で、16日午前3時頃（朝日新聞、スポーツ報知）三原山山腹西部の神達（かんだち）地区上部斜面で、多数の表層崩壊が広範囲で同時多発的に発生した。大量の土砂と立木が土石流となって流出し、大半は砂防施設で抑止されたものの一部は下流の元町地区まで流下した。これにより、神達地区、元町地区の人家や道路が被災し、死者36名、行方不明3名の大きな被害となった。新聞報道によると、土石流の被害は幅950m、長さ1200m（約114ha）に及び、エリア内での建物被害は全壊128棟を含め少なくとも368棟であり、発生した瓦礫は11万トンに及んでいる（毎日新聞、朝日新聞）。そのほか、大島北東部の泉津（せんづ）地区でも小規模ながら表層崩壊が発生し、道路損壊や人家への土砂流出が生じている。」

（写真提供はアジア航測株式会社）